NICU留学記

2009年3月より，神奈川県立こども医療センター新生児科では全国の若手医師を対象とした「新生児医療のための短期有給研修医制度」をスタートさせました．本コーナーでは，この研修に参加した若手医師の奮闘の様子を紹介します．

留学生：川戸　仁
国保旭中央病院→神奈川県立こども医療センター
研修期間：2009年3月26日～2009年6月26日

第2回：忘れられない5月9日

長いようであっという間の4月が過ぎ，気付くと5月に突入し，短期研修も折り返し地点に入ろうとしていました．「慌てず，急いで」．豊島先生にそう励まされながら仕事をする日々でしたが，常に緊張の連続である新生児医療の現場で心を一瞬落ち着かせる，非常にいい言葉だな，と感じています．「準夜帯で落ち着いて帰路につくと，深夜帯に入院が入る」という傾向が5月上旬にあり，その中でも5月9日は恐らくこれからも忘れられないであろう1日となりました．土曜日にしては日中から比較的落ち着いた日で，準夜帯には特に動きがなくいったん帰路についたのですが，それが引き金となったのか，夜23時から朝4時にかけて怒濤の入院ラッシュとなりました．①26週で院内出生の超低出生体重児（23時出生），②胎便吸引症候群による重症新生児仮死の院外出生児の迎え搬送（0時半に出発し，2時半入院），③先天性横隔膜ヘルニアの院内出生児（4時出生）と，いずれも重症児ばかりで，夜間，私を含め6人の医師がフル稼働状態でした（もちろん看護師さんの忙しさは言うまでもありません）．神奈川県立こども医療センターでは日常茶飯事である出来事の一つひとつが，私にとっては貴重な経験の連続でした．私は横隔膜ヘルニアの児の担当医をさせていただきました．

NO吸入療法および血管拡張薬投与の適切なタイミング，クリティカルCO_2の概念，flip-flopを少なくする管理などを念頭に置き，術前のPPHN管理から一つひとつ乗り越え，無事に手術につなげ，術後管理を経て児を安定させることができました．身をもって得るものの大きな25日間でした．児とそのご両親の笑顔と共に産科医，新生児科医が写っている退院時の写真は，私の心を癒してくれる宝物です．自施設では決して経験できない症例の治療にじかに触れつつ，改めて自施設での役割（初期の対応など）を再確認することができました．自施設を守ってくれているスタッフに感謝しつつ，日々勉強です．

●留学記録　「慌てず，急いで」．新生児医療の現場で心を一瞬落ち着かせる奥の深い言葉です．